

ヘリコプター内で会話するには？

海上保安庁の救助活動の一つにヘリコプターの機動力を活かした吊上げ救助があります。

この救助は、ヘリコプターから救助隊員（特殊救難隊員や機動救難士）を降下させ、遭難している人々を確保し、ヘリコプターへ吊上げ救助することです。

この救助を行うためには、操縦者であるパイロット、巻き上げ装置を操作するホイストマン、降下する機動救難士の連携がとても大切になります。



しかし、ホバリング（空中静止）しているヘリコプターの騒音レベルは約 120 デシベル（飛行機のエンジン近くの音と同じくらい）であり、人の声はほとんど聞こえません。

ではどのようにして、お互いに連携をとっているのでしょうか？

今日は機内での会話の仕組みについて紹介したいと思います。

ヘリコプターのクルー（乗組員）は、機内ではイヤフォンとマイクが一体型となったヘッドセットと呼ばれるものを、頭に装着して、会話をします。

ヘッドセットのマイクは人が声を放と、マイクから音声信号となりジャンクションボックスに集められます。ジャンクションボックスから各クルーに信号が分配され、各クルーの座席付近に装着された ICS コントロールパネルを介し、ヘッドセットのイヤフォンで会話を聞くことができます。

また、ICS コントロールパネルはヘッドセットから聞こえてくる音量を調節したり、接続されている別の無線機に切り替えたりすることができます。

この装置の仕組みのことを**機内交話装置 (ICS)** と言います。

※ICS (Intercom System)

ホイストマン



パイロット



重要な情報

救助活動中、ホイストマンは、この機内交話装置を使用し、周りの騒音に邪魔されることなく救助を行う上で重要な情報をパイロットに伝え、ヘリコプターを誘導し、安全に吊上げ救助をすることができます。

また、パイロットはこの機内交話装置で、ヘリコプターに搭載されている無線機を選択して、空港の航空管制官と通信し、安全に飛行しています。

このように、機内交話装置は、海難救助現場で機内のコミュニケーションを確実にすると共に、航空機の日々の安全運行をサポートしています。

どんな風につながっているの？

